

## エゾシカ個体数調整時に発生したヒグマによる負傷事故について

### 1. 事故概要

発生日時 : 2023年6月28日16:40頃(曇り)

発生場所 : 知床岬羅臼側台地上

被害者 : 作業員1名(40代男性、斜里町在住)

発生状況 :

- ・環境省発注業務(※)によるエゾシカの捕獲作業のため、作業員が草原の林縁部にさしかかったところ、距離約12mの位置からオス成獣サイズ(推定150kg以上)のヒグマ1頭が出現し、突進を受ける。
- ・作業員はクマ撃退スプレーに手をかけるものの間に合わず、ヒグマの右手が作業員の左頬及び左腕に接触し転倒。
- ・ヒグマは一旦後退して草藪内に見えなくなるものの、直後に再び出現し突進してきたため、作業員はクマ撃退スプレーを構え、約2mの距離でヒグマの顔面に向けてスプレーを噴射、ヒグマは後退して姿が見えなくなる。
- ・負傷した作業員は約150m離れた場所に停めてあった電動バイクまで徒歩で移動し、啓吉湾付近まで移動。傷の応急処置を実施するとともに、携帯電話にて事業本部(知床財団)へ状況報告。
- ・同日中に船舶でウトロ港まで戻り、斜里町内の医療機関にて治療を受け、帰宅。

当日の安全対策 :

- ・環境省による「捕獲事業計画」のほか、請負者による「鳥獣等捕獲等事業の実施に係る安全管理規程」に基づき安全管理。特に現地作業時には以下の対策を実施。
  - ＜捕獲作業前＞ 作業員間で打合せを行い、作業手順の確認や安全確保に係る必要な情報を共有
  - ＜捕獲作業時＞ ヘルメットの装着、クマ撃退スプレー及び無線機を常時携帯。忍び猟中であり、エゾシカに気づかれないようにクマ鈴は携帯せず

### 【※】エゾシカ捕獲業務について

業務名 : 「令和5年度知床国立公園(非積雪期)エゾシカ個体数調整実施業務」

発注者 : 環境省

請負者 : 公益財団法人知床財団

捕獲作業の概要 :

- ・知床世界遺産地域科学委員会エゾシカWGでの議論を踏まえ、巻狩り・待ち伏せ式狙撃・忍び猟(音や気配を消してエゾシカを探索し捕獲する猟法)といった様々な猟法を用いて実施。
- ・令和5年度は5月～7月に計30日以上の実施を計画(事故後、中断)
- ・毎回のエゾシカ捕獲作業員は3～9名、作業は日の出から日没まで。

## 2. 現場検証の結果

7月20日に実施された現場検証の結果は以下のとおり。

(現場検証参加者…知床財団、ヒグマWG 佐藤座長、環境省、北海道、当該従事者)

### ①ヒグマ餌場への意図しない接近

- ・事故地点から約18m 斜面下にエゾヤマザクラを確認（右写真）。
- ・樹下には枯葉が付いた状態の折れた枝が堆積し、樹上には複数の折れた枝やサクラの実を採食していた痕跡を確認。事故当時、ヒグマはサクラを採食していた可能性が極めて高い。
- ・佐藤座長からは、「今回の事例は餌に執着したヒグマが接近者に対して排除的な行動をとった可能性がある。」とのコメントをいただいた。



### ②至近距離での遭遇

- ・事故地点である林縁部は腰丈ほどの草本が優占する環境であった（下写真）。
- ・当日の事前ミーティングでは、見通しの悪い場所では音出しを徹底するよう打合せを行っていたが、作業員は適度に見通しが効く環境と判断し、音出しは行わず忍び猟を継続し、ヒグマとの遭遇に至った。
- ・当時、加害個体は相当慌てていたものと推測され、至近距離での突発的な遭遇に驚いたヒグマが自己防衛のために攻撃を行った可能性が高い。



## 3. ヒグマWGでの指摘事項

8月8日に開催されたヒグマWGにおいて、上記「1. 2.」を報告した結果、今後のエゾシカ捕獲時において留意すべき点など、以下の助言あり。

- ・事故時に無線が通じなかった点は改善検討すべき。
- ・知床には150kg前後のメスは珍しくない。また、見えたヒグマが単独だったからといって、絶対に親子ではなかったとは言い切れないと思う。従って、公式の記録としては「オス成獣」ではなく「オス成獣の可能性あり」程度が正しいと思う。
- ・たとえ忍び猟であっても射手とスポッターの2名がコンビを組んで動くことを基本にすれば、万が一の際にも連絡が取りやすいし、残る1名が防衛行動をとれたかもしれない。

<参考：事故発生位置図>

